

学校教育目標	多くの人との関わりの中で【公・開】 ●自他の生命を尊び、互いに思いやる豊かな人間性を育みます【徳・体】 ●進んで課題を発見し、ねばり強く解決していく力を育みます【知・徳】 ●自ら学力の向上に努め、自立的に学び続ける力を育みます【知】					
	学校概要 創立 75 周年 児童生徒数: 456 人	学校長 木藤肇 主な関係校: 蒔田小学校、南太田小学校	副校長 熊切隆、増田宣明	3 学期制	一般学級:12	個別支援学級:3

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力 <自分づくりに関する力>	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
	蒔田中学校 蒔田小学校 南太田小学校	○目標を見つけ学び続ける子ども ----- ・発達段階に応じたキャリア教育を通し、先の見通しをもって自己実現を目指す子どもを育てる。 ・「できる」「わかる」体験を通して、自信をもち、自他を高める子どもを育てる。 ・まちや人との関わりを通し、社会とつながり、地域を愛する子どもを育てる。

中期取組目標	○全職員で生徒の健全育成に向けて、活力と魅力のある学校作りを目指します。 ○基礎・基本の定着を図るために、指導力の向上を図り「生きる力」を育む教育活動を推進します。 ○他者との違いを認め、互いを大切に作る温もりのある集団づくりに努めます。 ○地域社会の中で自分を見つめられるような体験学習をすすめます。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知 担当 学習指導部	①各教科で年1回は南区教研、校内授業研、小中一貫教育推進ブロック授業研などで研究授業を行う。②「主体的に高め合う、学び合いの授業づくり」をテーマとして年間を通して授業研究に取り組む。
豊かな心 担当 学習指導部	①道徳の授業を中心として、すべての教育活動を通して道徳教育の充実を図る。②校内で気持ちのよいあいさつができるよう、生徒会によるあいさつ運動等を活性化させる。③「学び合い」を通して、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性を育む。
健やかな体 担当 保健指導部	①定期健康診断を通し、自身の発育、発達や健康状態に対する理解を深める。②健康的な生活習慣が感染症予防をはじめとした健康の保持増進に繋がることを理解させ、実践する習慣や態度を養う。③薬物乱用防止等、社会的な問題について、専門知識をもった外部機関と連携し、講演会を行う。
自分づくり教育 担当 特活指導部	学級活動・委員会活動・学校行事において、①自らの役割を最後までやり抜いたという成功体験を通して、さらに、クラス・学年・学校のために貢献できる生徒を育てる。②目的や目標に対する振り返りを適切に行い、成果と課題を明確にすることで次に生かす、効果的なPDCAサイクルを実施していく。
防災教育 担当 保健指導部	①感染症拡大防止に配慮しながら1・2年生で防災講演会を実施し、生徒の防災への理解を深める。また、各学年の校外学習の中で体験的な防災学習の機会を設定し、災害時に必要な資質・能力を向上させる。②感染症拡大防止対策を踏まえた実践的な防災訓練を年5回(引取訓練1回を含む)実施し、生徒の防災意識を高める。
教育環境整備 担当 事務部	①毎月安全点検を行い、学校施設・設備の安全、維持管理に取り組む。②教室等に必要な備品や授業等で活用する教材教具を計画的に整備し、適切に管理する。③防火シャッター点検や消防設備点検により報告された事項を改善し、生徒が安全に学校生活を送ることができるように環境を整備する。
地域連携・学校運営協議会 担当 教育課程検討改善委員会	①社会情勢を見ながら年3回以上学校運営協議会を開催し、地域連携の具体的な取組を一つ以上設定する。②地域行事、特に、地域防災拠点訓練に多くの生徒が参加できる体制を確立する。③学校Webページを毎月2回以上更新し、学校の取組についての情報公開を充実させる。
特別支援教育 担当 特別支援教育推進委員会	①引き続き、特別支援の視点でより分かりやすい授業、教室にするためにユニバーサルデザインなど、特別支援に関わる研修を職員会議と合わせて行う。②登校支援の内容を充実させる。③個別の教育支援計画、指導計画を作成する時間を学校全体で設け、相互理解を深める。
いじめへの対応 担当 いじめ防止対策委員会	①いじめの未然防止として、生徒の特性を理解するためにYPアセスメントを年2回以上実施し、前年度からの分も含め活用する。②子どもの社会的スキル横浜プログラムについて実施し、YPアセスメントで効果を測る。③いじめ防止対策委員会を定期的に開き、進展状況の確認や対応方針をすすめる。④年間3回以上のいじめアンケート及び生活アンケートを実施し、教育相談を行う。
人材育成・組織運営(働き方改革) 担当 教務部	①学年職員の打合せを毎日実施し、情報共有と生徒理解を通して、経験の浅い職員のフォロー体制を充実させる。②会議の精選について年間を通して検証していく。職員間の共通理解の充実とともに、会議時間縮減によって職員が生徒と関われる時間を増やすことを目指し、効率的な会議の方法を確立する。③年2回の職員反省を活用し、速やかで効果的なPDCAサイクルのもとで組織運営を進めていく。